

平成27年度 重点取組事項



飯豊山（地藏岳から撮影）



林野庁 東北森林管理局
置賜森林管理署

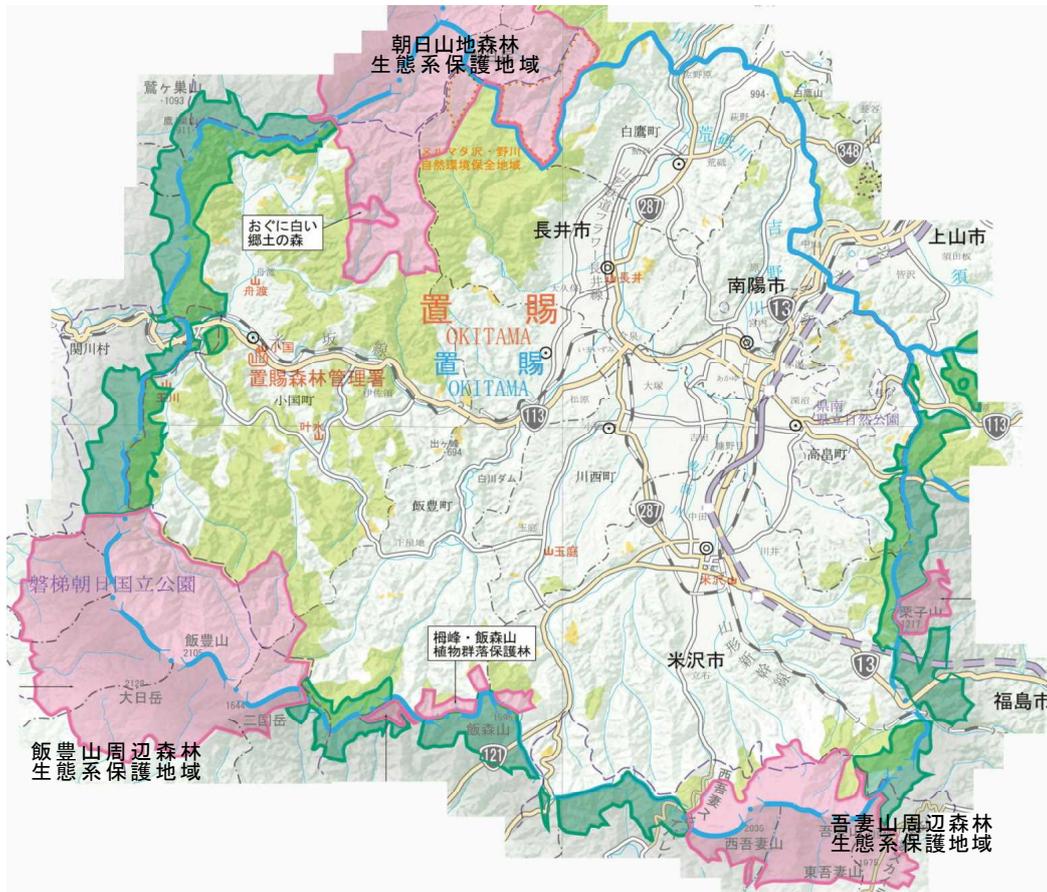
〒999-1352 山形県西置賜郡小国町大字岩井沢581-45

TEL 0238-62-2246 IP 050-3160-5860 FAX 0238-62-3553

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/sho/okitama>

I 管内の概要

置賜森林管理署は、米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町の3市5町の土地面積の31%、森林面積の40%を占める国有林野（官行造林地を含む）7万7千haを管理経営しています。



II 公益重視の管理経営の推進

1 保安林、自然公園等の指定

- ① 管内の国有林は、最上川と新潟県に流れる荒川の源流部の重要な水源地帯に位置し、水源の涵養、土砂流出防備等に大きな役割を果たしていることから、国有林の98%が保安林に指定されています。

保安林種類別面積(H27.3.31現在)

区分	水源かん養	土砂流出防備	干害防備	なだれ防止	保健	合計
面積(ha)	63,324	(10,451) 22,106	502	(465) 520	(266) 266	(11,190) 75,527

- 注 1 兼種保安林の面積は、上段()で内書です。
2 管内国有林に占める保安林の割合は、98%です。

- ② ブナなどの天然林等が森林面積の90%を占め、それらの森林が朝日連峰、飯豊連峰及び吾妻連峰の2km級の雄大な景観を形成しており、管内の国有林の22%が磐梯朝日国立公園等に、36%が鳥獣保護区に指定されています。

自然公園等の面積(H27.3.31現在)

区分	自然公園		鳥獣保護区
	国立	県立	
面積(ha)	17,128	1,017	27,280
割合(%)	22	1	36

- ③ 管内の国有林には、山形県指定の史跡「飯豊山の穴堰」(飯豊町、小国町)、天然記念物「小国のそろばん玉石」(2ha、小国町)、「山形県ヌルマタ沢・野川自然環境保全地域」(765ha、長井市)もあります。

2 適切な森林整備の推進

地球温暖化防止など森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるよう、人工林の下刈、除伐、間伐等の森林整備を推進しており、平成26年度には、地拵・植付1ha、下刈14a、除伐229ha、間伐90ha等を実施しました。

平成27年度には、地拵え・植付7ha、下刈15ha、除伐151ha、間伐87ha等を行う予定です。



人工林(215Ⅲり林小班)

3 地域の安全・安心を確保する治山事業

地域の安全・安心を確保するため、治山事業を推進しており、平成26年度には米沢市の「漬場沢地区」において地すべり対策等のため「床固工」を実施するとともに小国町の「増川地区」において「床固工」、「樺沢地区」において「谷止工」を

施しました。

平成27年度は、米沢市の「漬場沢地区」、小国町の「増川地区」「樺沢地区」において「溪間工」等を行う予定です。



漬場沢地区の「床固工・布製型枠流路工」



樺沢地区の「谷止工」

4 ナラ枯れ被害対策の推進

ナラ枯れは、病原菌（ナラ菌）を持つ「カシノナガキクイムシ」が、ミズナラなどの中大径木1本の木に数千匹から数万匹入り込み、付着した病原菌が繁殖して樹木の通水障害が起こることにより、集団的に枯死するものです。



ミズナラの枯死状況



根本には大量のフラス（粉状の木屑と虫の排せつ物が混じったもの）

当署管内では、平成17年度に小国町内でナラ枯れ被害が確認されて以来、被害が拡大してきました。

このため、先駆的に、山形県森林研究研修センター、小国町等民有林と国有林が連携して、防除対策、研修会の開催等を行ってきました。特に、山形県森林研究研修センターが進める、「ナラ枯れ面的防除実証試験（おとり木や大量集積型おとり丸太への誘引フェロモン剤設置等）」や「高濃度薬剤の試験」に協力してきており、その成果は他地域の取組の参考とされています。

管内の国有林のナラ枯れ被害本数は、平成21年度33,538本をピークに、平成26年度には27本まで減少しており、特に、小国町内の被害本数は、民国合計でも74,964本から4本（山形県森林研究研修センター調べ）に激減しております

平成26年度には、面的防除実証試験のために合成フェロモンを用いたおとり木トラップ1箇所設置、保護したいナラ健全木へのナラ菌繁殖抑止のための高濃度等薬剤注入1箇所を行うとともに、危険木86本を伐倒しました。

平成27年度には、引き続き、危険木の伐倒、重点的に防除すべきナラ林において保護したいナラ健全木への高濃度等の薬剤注入等を行う予定です。また、ナラ枯れ被害後の倒木等による2次被害が懸念されることから、研修会開催などを通じた普及啓発も推進します。



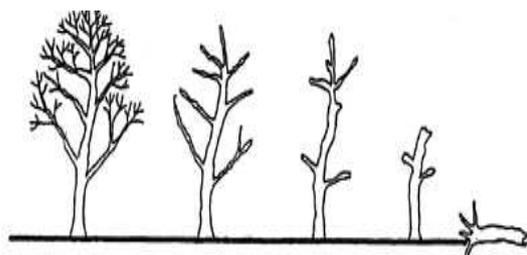
殺菌薬剤の注入



大量集積型おとり丸太の設置

<ナラ枯れ被害木に注意>

ナラ枯れ被害木は、数年（4～5年程度）経過した頃から、枯れた枝の落下や倒木が多くなると言われていますので、林道、登山等の通過、森林内への入林の際は、十分気をつけて下さい。また、危険な箇所には、近づかないようにして下さい。



枯死木様態	1	2	3	4
モデル	小枝が残っている	太い枝のみ残る	太い枝が折れる	幹が折れる
枯死後	1年～2年	2年～4年	4年～6年	5年～9年

出典：山形県森林研究研修センター

<猛毒きのこ「カエントケ」に注意> ～食べても、触れても危険～

関西地方のナラ枯れ被害地で猛毒きのこカエントケが発生する事例が増えていますが、当署管内のナラ枯死木の根元でも発生が確認されています。

カエントケは猛毒きのこですので、絶対に食べないようにご注意願います。また、他の毒きのここと異なり、触れるだけで皮膚がただれる場合がありますので、絶対に直接触れることがないようにご注意願います。



小国町大沢外6（平成25年7月24日）

5 「保護林」と「緑の回廊」

管内には、貴重な野生動植物が生息・生育するなど豊富な森林生態系を有するブナ林等の天然林が多く、国有林の3分の1が保護林に設定されています。

特に、森林生態系保護地域は、原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資するため設定するものであり、管内には、「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、「吾妻山周辺森林生態系保護地域」及び「朝日山地森林生態系保護地域」の3箇所が設定されています。

また、これら保護林を連結する緑の回廊として、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊」が設定されています。

保護林の種類別箇所数・面積(H24. 3. 31現在)

保護林の種類	箇所数	面積(ha)
森林生態系保護地域	3	24,878
林木遺伝資源保存林	1	1
植物群落保護林	4	1,059
郷土の森	1	185
計	9	26,123

森林生態系保護地域の面積(H24. 3. 31現在)

単位：千ha

区分	朝日山地	飯豊山周辺	吾妻山周辺	計
東北森林管理局	48	11	4	63
置賜森林管理署	10	11	4	25
他署	38	-	-	38
関東森林管理局	22	16	8	46
計	70	27	12	109

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の延長・面積(H24. 3. 31現在)

区分	延長(km)	面積(千ha)
東北森林管理局	235	47
置賜森林管理署	65	11
他署	170	36
関東森林管理局	25	17
計	260	64

「保護林」とは

国有林は、奥地脊梁山地に広く分布しているため、優れた景観を有し、多様な動植物が生息・生育している原生的な天然林が多くあります。それらの森林を保護するため、「保護林」を設定しています。

保護林には、森林生態系保護地域、森林生物遺伝資源保存林、林木遺伝資源保存林、植物群落保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林及び郷土の森の7種類があります。

「緑の回廊」とは

森林生態系保護地域をはじめとする保護林のネットワークを形成し、野生動植物の移動の経路の確保、生息・生育地の拡大と相互の交流を促すため、設定されています。

6 森林生態系保護地域等の保全管理

森林生態系保護地域を保全するため巡視に努めるとともに、地方公共団体、自然保護団体、学識経験者など関係機関・団体等の情報・意見交換の場を設置して、情報の共有化、合意形成を図っており、会議で検討・調整された植生回復事業に対して支援しています。

また、森林保護員（グリーン・サポート・スタッフ）による巡視も行っています。



吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する検討会



植生回復作業(吾妻山弥兵衛平)



グリーンサポートスタッフ活動状況

7 森林ふれあいイベント

当署では、森林・林業に理解を深めていただくため、関係機関と連携して、小学生等を対象に森林教室を実施しています。



間伐施業地での枝払い



小国小学校への森林教室

また、国民の皆様にも、森林に親しみを持っていただくとともに、森林・林業・国有林の取組に理解を深めていただくため、「森林ふれあい推進事業」等を実施しております。

平成27年度には、「森と湖に親しむ旬間」における「白い森おぐに湖体験」に合わせての開催を予定しています。



黒沢峠敷石道 (H26. 8. 3)



関小学校清掃登山 (H26. 8. 22)

更に、国有林のフィールドを様々な活動の場として提供するため、平成23年度に、旧越後米沢街道 1 3 峠の 1 つ小国町の黒沢峠の保全活動に取り組む「黒沢峠敷石道保存会」と、東北森林管理局管内で初めて「多様な活動の森」の協定を締結しました。



協定締結 (H23. 11. 2)



ぶなの植樹 (H26. 5. 18)

(参考) 多様な活動の森における「黒沢峠敷石道の道」活動に関する協定

目 的： 多様な活動の森における黒沢峠敷石道保存活動や森林パトロール等の活動が円滑に実施されること

協定締結者： 黒沢峠敷石道保存会

区域面積： 1.35ha

協定期間： 平成26年4月1日から平成29年3月31日まで

Ⅲ 林業の成長産業化に向けた取組

農林水産業・地域の活力創造プランについては、人工林が本格的な利用期を迎える中で、豊富な森林資源を循環利用することが重要としています。このため新たな木材需要の創出、国産材の安定的・効率的な供給体制の構築などを目指し、搬出間伐、路網整備、人材育成、木材利用等を推進しています。

1 民有林行政への支援

平成23年度から、「准フォレスター」（准フォレスター研修を終了した職員）により、市町村森林整備計画の策定支援、森林共同施業団地設定の説明・支援、国有林図面の提供など民有林行政を支援しています。



准フォレスター等と小国町との打合せ

2 森林共同施業団地の設定

平成24年3月に、民有林と国有林が連携した施業の集約化・団地化により、合理的な路網整備と効率的かつ低コストの森林整備を行い、地域の森林・林業の活性化に資するよう、「森林共同施業団地」を設定しました。

森林共同施業団地等を通じて、民有林と国有林との連携を一層深めていくこととしております。



平成24年3月12日協定締結式

(参考) 森林共同施業団地の概要

- 目的： 民有林と国有林が連携した施業の集約化・団地化により、低コスト林業を目指し、地域森林・林業の活性化に資する
- 設定箇所： 小国町黒沢・種沢・大滝地区
- 協定締結者： 小国町長、財団法人 山形県林業公社理事長、小国町森林組合代表理事組合長、置賜森林管理署長
- 区域面積： 750.55ha（民有林402.05ha、国有林348.50ha）
- 協定期間： 平成27年4月1日から平成29年3月31日まで

3 搬出間伐の推進

間伐材等の安定供給を図るため、搬出間伐に積極的に取り組んでおり、平成26年度には、2つの森林組合と1つの素材生産業者と契約し、8,606m³（計画8,700m³）の間伐材等を伐採・搬出しました。

搬出した間伐材等は、木材市場への山元販売委託により販売したほか、間伐材等の安定供給と利用拡大を図るため、企画競争により選定された、国産材の需要拡大や加工の合理化に取り組んでいる木材加工施設に安定的に販売する「システム販売」により販売をしました。

平成27年度は、9,500m³（うちシステム販売6,820m³）の伐採・搬出・販売を予定しています。



高性能林業機械プロセッサ

4 路網整備の推進

路網とは、森林内にある「公道」、「林道」、10ト積みのトラック等の林業用車両の走行を想定する「林業専用道」、フォワーダ等の林業機械の走行を想定する「森林作業道」のことです。造林、保育、伐採・搬出等の森林施業を効率的に行うためのもので、作業現場へのアクセスの改善等林業労働条件の状況等にも寄与するものです。



大豆沢林道（林業専用道）

我が国では森林1ha当たりの林内路網密度は17m（平成21年）と整備が進んでいませんが、ドイツでは118mとなっていることなどから、「林業専用道」のほか丈夫で簡易な構造の「森林作業道」も含めて路網の整備を進めることが重要となっています。

平成26年度には、林業専用道800m（計画1,860m）の路体を作設、改良を1路線130m（計画同）しました。

平成27年度には、林業専用道の新設2路線1,940m（上層路盤工・排水工800m含む）、改良1路線130m等を予定しています。

5 低コスト作業システム等の導入促進

- ① 木材の安定的・効率的な供給のためには、施業の団地化・集約化、低コストで丈夫で使い易い森林作業道の整備、高性能林業機械と路網整備を組み合わせた低コストで高能率な作業システムの導入が重要となっています。
- ② このため、平成27年度には、低コスト作業システムの現地検討会を計画しています。（下記は、平成26年に実施した「森林の間伐方法研修会」の様子です。）

森林施業の集約化や新たな路網の整備等について室内研修を行うとともに、森林施業団地内の間伐作業現場でプロセッサによる造材作業の実演や列状間伐等の現地研修を実施



プロセッサによる造材作業



森林施業団地内の列状間伐施業地（88う林小班）



新たな路網の整備の説明

V あなたのまちの国有林

米沢市

総面積の76%が森林で、国有林がその23%を占めています。

米沢市内の国有林の大部分は、保安林整備臨時措置法に基づき昭和29年以降に買い入れた国有林がほとんどで、市南東部にある吾妻山系の北部、最上川源流部に位置しています。

原生的な天然林が多く、貴重な森林については、平成7年に「吾妻山周辺森林生態系保護地域」に設定されています。また、磐梯朝日国立公園にも指定されています。

天元台地区は、「野外スポーツ地域」に指定しており、登山客やスキーヤーが年間を通じて訪れています。また、白布峠を経て福島県に至る西吾妻スカイバレー周辺は、多くの人々に利用されていることから「吾妻スカイバレー風景林」に指定して景観維持に努めています。



天元台スキー場

南陽市

総面積の約59%が森林で、国有林がその3%を占めています。

南陽市内の国有林は、市北部の水林地区にあり、全域が水源かん養保安林に指定されており、豊富できれいな水の確保に役立っています。

当地は、吉野川の源流部で、江戸の頃より米沢の上杉藩が「水御林(水林)」と定め、下流の水源確保に努めた歴史があります。



南陽「水林国有林」

高畠町

総面積の約58%が森林で、国有林がその14%を占めています。

高畠町内の国有林の大部分は、町の東部、奥羽山系の西部に位置し、龍ヶ岳から豪士山にかけて県立自然公園に指定されています。

全域が水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定されており、水源の確保や国土の保全等に貢献しています。

川西町

総面積の47%が森林で、国有林がその2%を占めています。

川西町内の国有林は、町の南部浅俣地区に位置し、米沢市に接しています。

浅俣のヒメコマツは、低山(360~470m)に群生している貴重な天然林であることから、「植物群落保護林」として保護しています。

長井市

総面積の約69%が森林で、国有林がその61%を占めています。

長井市内の国有林は、市の西部、朝日山系の東部に位置しています。

野川上流部は「野川風景林」に設定され、木地山ダムからの景観は多くの人々に親しまれています。

これらの全域が土砂流出防備保安林や水源かん養保安林に指定されており、複層林施業等の公益的機能を重視した森林整備に努め、国土の保全と下流住民に豊富できれいな水を供給しています。

白鷹町

総面積の約65%が森林で、国有林がその9%を占めています。

白鷹町内の国有林は、町の西部に位置し、葉山及び藤堂山の東部に位置し、朝日町に接しています。

全域がブナやミズナラを主とする広葉樹天然林で、水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定されており、水源の確保や国土保全に貢献しています。

飯豊町

総面積の約84%が森林で、国有林がその22%を占めています。

飯豊町内の国有林は、大部分が町の南部、白川の源流部に位置し、福島県に接しています。

これら森林は、ほぼ全域が水源かん養保安林や土砂流出防備保安林に指定され、公益的機能の発揮等の役割を果たしています。

「大日杉野営場」は、「森林スポーツ林」に指定され、地蔵岳から飯豊本山に至る縦走コースの登山基地となっています。また、地蔵岳周辺の優れた山岳景観は「飯豊風景林」として森林レクリエーションの場として活用されています。

小国町

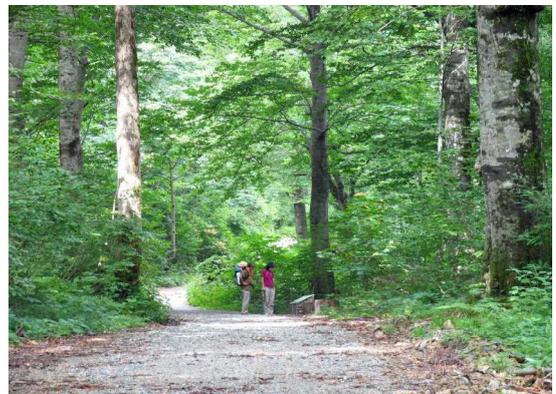
総面積の約94%が森林で、国有林がその72%を占めています。

小国町内の国有林は、町の全域に分布し、北部地域の森林は朝日山系の南側に位置し新潟県と、南部地域の森林は飯豊山系の北側に位置し新潟県及び福島県と接しており、両山系とも磐梯朝日国立公園に指定されています。

両山系属する貴重な森林は、平成4年に「飯豊山周辺森林生態系保護地域」、平成15年に「朝日山地森林生態系保護地域」に設定され、原生的で多様な森林と野生動植物の保護に努めています。

また、温身平風致探勝林など5箇所が森林とのふれあいの場として、自然景観を維持しつつ活用されています。

この温身平は、平成18年に森林セラピー基地に認定されており、小国町は、施設整備や受入体制の整備等、森林セラピー基地づくりを進め、利用者の増加を目指しています。



森林セラピー基地 温身平

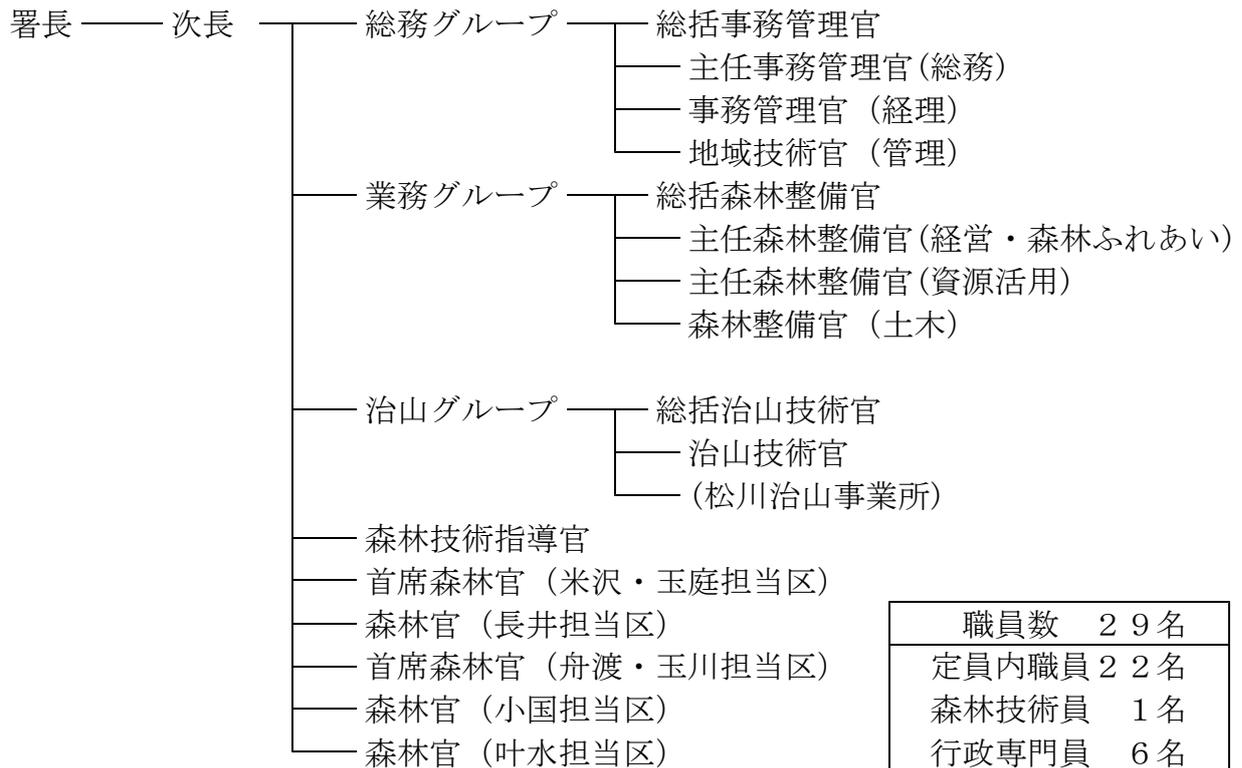
森林セラピー基地 ぬくみだら 温身平とは

森林セラピーは、森が持つ癒し効果をストレス解消や健康増進に役立てようとするものです。

平成24年3月現在、森林セラピー基地及びセラピーロードに全国で48箇所が認定されています。小国町が申請した「ブナの森 温身平」は、第1期に認定されています。

温身平は、飯豊連峰北側の山麓の溪流沿いにあり、風致探勝林5.5haを含む当該地域の面積は約300ha、その大半が国有林であり、ブナを中心とする天然林が広がっています。飯豊連峰への登山口でもあることから、観光や登山等の目的で多くの人々が訪れています。

VI 組織図(H27.4.1現在)



VII 沿革

明治22年	4月	宮城大林区署に「米沢派出所」を設置
明治25年	4月	宮城大林区署に「米沢小林区署」と「小国小林区署」を設置
明治40年	7月	米沢小林区署は、山形小林区署に統合
大正2年	6月	宮城大林区署を廃止し、秋田大林区署に移管
大正3年	8月	小国小林区署を東京大林区署に移管
大正13年	12月	大林区署は「営林局」に、小林区署は「営林署」に改称 「米沢営林署」を設置
昭和13年	8月	小国営林署を秋田営林局に移管
昭和27年	3月	小国営林署旧庁舎を小国町大字緑町に新築
昭和32年	10月	米沢営林署旧庁舎を米沢市下花沢町に新築
平成7年	3月	「小国営林署」と「米沢営林署」を統合し、「小国営林署」と「米沢森林管理センター」に改組
平成11年	3月	組織再編により東北森林管理局の「置賜森林管理署」に改称
平成13年	8月	「米沢森林管理センター」を廃止
平成16年	12月	置賜森林管理署現庁舎を小国町大字岩井沢に新築



置賜森林管理署庁舎